

国立大学教育研究評価委員会（第67回）議事録

1. 日 時 令和4年5月25日（水）14時00分～16時00分

2. 場 所 オンライン会議

3. 出席者

（委 員）浅田委員、荒瀬委員、アリソン委員、池上委員、石井委員、井上委員、
宇川委員、小畑委員、小林委員、高橋委員、豊田委員、安井委員、
山内委員

（事務局）福田機構長、光石理事、絹笠理事、岡本参与、長谷川参与、
土屋研究開発部長、竹中特任教授、光田教授、井田教授、
吉田評価事業部長、勝又国立大学評価室室長、
佐藤国立大学評価室室長補佐、石森国立大学評価室室長補佐 外

4. 議 事

（1）第4期中期目標期間の教育研究評価に向けたデータ分析集等の見直しについて

（2）～（5） ※非公開

5. 議事録

（○：委員、●：事務局）

○委員長 ただいまから国立大学教育研究評価委員会（第67回）を開催いたします。

本日の会議の公開について、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構国立大学教育研究評価委員会運営内規の第10条に基づき、原則として公開となります。しかしながら、議事（2）以降は、公にすることにより率直な意見の交換、もしくは意思決定の中立性が不当に損なわれるおそれ、また、不当に国立大学等の間に混乱を生じさせるおそれがあると判断し、非公開といたします。また、当該議事に関する会議資料の取扱いについても、同様に非公開といたしますので、取扱いには、十分注意してください。

それでは、議事に入る前に、事務局から配付資料の確認をお願いします。

● 本日の資料については議事次第のとおりです。不足等がありましたらご連絡をいただければと思います。

○委員長 第66回の本委員会の議事要旨（案）につきまして、事前に確認をいただいておりますので、確定したいと思いますが、よろしいでしょうか。

それでは、資料１（案）のとおり確定とします。

<議事（１）>

○委員長 それでは、第４期中期目標期間の教育研究評価に向けたデータ分析集等の見直しについて審議したいと思います。

まず、ワーキンググループにおける検討状況について、ワーキンググループ主査より報告をお願いします。

○ワーキンググループ主査 それでは、ワーキンググループにおける検討状況について報告します。

第４期中期目標期間の教育研究評価に向けたデータ分析集等については、昨年度３月の本委員会において、１．各法人に求めるデータの精選、２．システムの再構築、３．現況分析単位との整合性を確保という３つの見直しの方向性が案として了承されています。５月１８日に開催のワーキンググループにおいては、文部科学省や国立大学協会から特段の意見はなかったものの、確認も含めて再度検討を行うこととしました。

それでは、具体的な内容について、事務局より、説明をお願いします。

● 資料２をご覧ください。第４期中期目標期間の教育研究評価に向けたデータ分析集等の見直しの方向性について（案）は、前回、３月２３日の本委員会で承認いただいたものですが、文部科学省及び国立大学協会に意見を聞き、その結果をもって、改めてお諮りすることとなっております。

この資料について再度概略を説明させていただきますと、第４期中期目標期間の教育研究評価に向け、教育研究評価に活用しているデータ分析集と入力データ集について、法人及び評価者へのヒアリングにより把握した課題を踏まえ、データの有効的な活用と法人の負担軽減の観点から見直しを図るという趣旨です。

まず、課題として、１点目は、法人に求めているデータは膨大である一方、データ分析集は４６指標のうち活用している指標は３指標にとどまっており、また、入力データ集は評価者の基礎資料にとどまっていることから、データの活用度が十分とは言えないこと。

２点目は、データ収集方法を Excel の調査票に限定しており、データ修正の際には機構事務局を介しているなど非効率であることから、システムの再構築が不可避であること。

３点目は、現況分析単位と登録組織との不一致、教教分離による現況分析単位との不一致により、本務教員数が評価対象組織の実態に即していない数値となる場合があるため、評

価に必要なデータとの整合性に課題があること、この3点が、確認されています。

これらの課題を受けた見直しの方向性として、1番目、各法人に求めるデータの精選という点に関しては、アとして、データ分析集は、ピア・レビュー評価を補完する位置付けとし、データの定義を一から見直した上で、第4期の教育研究評価に必要な指標のみに精選し、その指標の算出式についても見直す。その際には、外部データを積極的に活用し、現状の46指標にない指標開発も併せて模索する。なお、ここの「必要な指標のみに精選し」の記載については事務的な修正を施しており、前回、本委員会にお諮りした際には、「必要な指標のみで構成し直し」としておりましたところ、より分かりやすい表現にするため、「必要な指標のみに精選し」という記載に修正いたしました。

2点目、イとして、入力データ集については、近年の大学IR活動の進展に伴い、各大学は自前で根拠データを用意できるようになっているため、根拠資料としての役目を終えたものとみなし、廃止する。ここに、括弧の表記を追加しております「データ分析集に必要なデータの収集にとどめる」ということで入力データ集は廃止しますが、データ分析集として必要なデータは、引き続き、継続して収集させていただくということを、この括弧書きにて入念に示したということです。

それから、ウとして、各法人に求めるデータの項目や定義内容については、統計法に基づく基幹統計である学校基本調査等に拠るものとし、独自のものは極力用いない。ここも1点追記があり、学校基本調査の前に、「統計法に基づく基幹統計である」という言葉を追加し、法に基づく調査である旨を、位置付けとして明確にしました。

そして、エとして、項目及び定義内容については、最新の学校基本調査等に基づき更新し、明確化を図るとともに、今後は、学校基本調査等の動向を注視し、随時更新することによってまとめています。

続いて、2番目、システムの再構築という点に関しては、アとして、大学の基本情報データ等との重複入力を避け、データを提供する側の負担軽減を図る。

また、イとして、ウェブ入力や外部データからの情報収集を可能とするシステムを開発し、データ収集の省力化を図る。

ウとして、法人によるデータ確認・修正を随時可能とすることで、データ精度の向上を図るということによってまとめています。

3番目、現況分析単位との整合性を確保するという点に関しては、アとして、第4期中期目標期間における教育研究評価に向けて、評価の在り方を含めて文部科学省と調整し、

特に現況分析（研究面）では、教教分離による教員組織を対象とする方向で調整する。

イとして、アの上で文部科学省国立大学法人評価委員会によって決定された現況分析単位に基づき、各法人には組織登録を求めるということでまとめています。

本資料については、文部科学省及び国立大学協会に意見を聴いたところ、両者から特段の意見はありませんでした。その点も踏まえて、ワーキンググループにて改めて確認いただき、ワーキンググループにおいても、特段の修正は行われておりません。

本日は、本委員会においても、本内容について改めてご確認をいただければということで、審議のほどお願いしたいということです。

事務局からの説明は以上です。

○委員長 どうもありがとうございました。それでは、第4期中期目標期間の教育研究評価に向けたデータ分析集等の見直しについて、審議をお願いします。事務局からの説明も含めてご意見・ご質問があればお願いします。

○ 必要かつ有効ということで設定された46の指標のうち、結果として3指標しか活用されていないのはどういう事情でしょうか。

● 46の指標に関しては、重要指標、分析指標、参考指標と分けをしており、この重要指標に分類される指標が3つという形になっています。主に研究面に関するこの3つの指標は判定にあたって特に活用されておりまして、分析指標と参考指標も判定の際に参考として活用いただいておりますが、判定の際の活用としては、この3つの指標に集中していたというところです。

○委員長 ほか、コメント、ご意見ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、原案のとおり、第4期中期目標期間設定の教育研究評価に向けたデータ分析集等の見直しの方向性について、本委員会として確定いたします。

なお、字句の修正等を含め、今後修正が必要な場合には、私に御一任をいただきますようよろしくお願いいたします。

それでは、次の議事に入る前に、事務局より配信の終了について説明をお願いします。

● 会議冒頭で委員長から説明がありましたとおり、これ以降の議事は、非公開となります。以上をもちまして、オンライン配信は終了となります。

— 了 —